



No.052 非常時のルール作り・「何のため」 プリンシップルベース 有事にわかる、ことがらの本質



<https://www.cnn.co.jp/world/35153191.html>

有事は平時のルールを破ります。

平時のルールは概して平穏無事な秩序維持を優先していますが、命に関わるリスクと比較考量する時、価値観の衝突が起こります。

例えば憲法上の権利である営業の自由と営業禁止(休業要請・指示・命令も同じ)は明らかに相反しますが、それでも「何のためか」という根拠が合理的であれば経済を犠牲にするしかありません。

「命を守るため」に「接触機会回避」のために「stay home」を実効あらしめるために…という目的・手段の連鎖。

もちろん命のリスクは不安だからという漠然としたものでなく、科学的根拠が示されなければなりません。そのうえで、命に順番をつけるが如く、誰かの権限=責任でどちらが大事かを判定しなければならないのです。

営業をストップする経営者も補償金をもらうから営業を止めるのではなく、それに合理的な理由があるから止めるのです。「何のため」という原理=プリンシップルを示してそれを国民が理解し行動すれば、こまごまとしたルールを法律で作るよりもはるかに合理的で柔軟です。

一方、政府は営業停止命令(休業要請)を出したかどうかにかかわらず、コロナのせいで事業体が破壊されることは全力で阻止しなければならない。そのために財政資金を使って、事業体が生き延びることができるよう市中におカネを出し続けなければならないのです。

もちろん戦争直後のような通貨の信用低下を招くこともあるでしょう。しかしだからといって、いま財政出動をケチる選択肢はないのです。

何が大事か、何のためにその政策を取るのか、何を優先するか、公権力を持つ政府は賢くなければなりません。

愚かなリーダーのいるアメリカとブラジルは、これからもっと悲惨なことになるでしょう。